

未

野



「Strange Chameleon」北川 絢香（日本画コース 206J016）

木野通信

Kino Press No.52

Kyoto Seika University

京都精華大学

木野通信 第52号 2011年7月1日発行
 京都精華大学入試広報部広報課
 〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137
 TEL 075-702-5197

鳥の目

学長◎ 坪内成晃 7subouchi Shigeaki

今の学生がいろんな細かい知識を持っていることに驚くことがある。特にIT、ファッション、音楽などのマニアックな情報に詳しい。だから昨年、学生達と美術館を巡るツアーのなかでもっと驚いたことがある。メディアに長けているはずの学生でも簡単な地図が「読めない」のだ。図面の天地左右を回転して眺めているのだが方向がとれない。距離も記号も解らない。

確かに彼らはケータイのGPS機能などの進歩で目的にたどり着く情報収集の術はもっている。しかし、地図を見て出発点から到着点までの関係や、その途中の様子を相対的につかめないのだろう。地図を読むことは、鳥の目になって想像力を駆使して全体と部分を総合的にイメージし捉えること、つまり寄り道をするという発想を持つことだと思う。それが無いから、どうしても現場と地図との乖離がうまれる。

どのような物事でも全体を俯瞰する鳥瞰図的な視点を持たば、身のまわりを把握する虫のような能力も発揮することができる。

先日、動物行動学者で本学の人文学部客員教授であった日高敏隆先生が、60年前に書きおろした歌ものがたり「カエルの目だま」が発見され、絵本として出版された。自分の目だまを自慢するトノサマガエルが、空を舞う複眼のギンヤンマに出会い、「違いがあっても優劣はない」と理解することをユーモラスに描いたもので、ファンタジックなイラストと絡まって爽やかな気持ちになる本だ。生き物にはお互い違いがあり、その多様さを個性として伸ばし浮上させることこそが素晴らしい生き方になるのだろう。そういえば数日前、'70年代後半の卒業生によるクラス会が開かれ40名程が集まった。卒後、彼らの仕事や生活は様々だが、しっかり個性的な特徴を伸ばして生きているのが嬉しかった。

通

信

News 大学院マンガ研究科に博士後期課程を開設

日本初、マンガ大学院での博士号取得が可能に

京都精華大学は、2012年4月、大学院マンガ研究科に博士後期課程(マンガ専攻)を開設する。この課程では、日本で初めてマンガの大学院での博士号取得が可能となる。

現在、国内外から注目を受けるマンガ文化は、デジタルメディアの発達やビジネスモデルの変化、コンテンツのグローバル化の中で大きな転換期を迎えている。マンガ文化の中心である日本に対して、海外からの高度な研究の場を求める声が増えています。

本学では、時代の要請に応じ、

40年にわたるマンガ教育での実績を基盤とし、マンガ、アニメーション分野において、多角的視点から学術研究を行い、実制作および理論に関して、高度な能力を有した人材の育成を目指す。

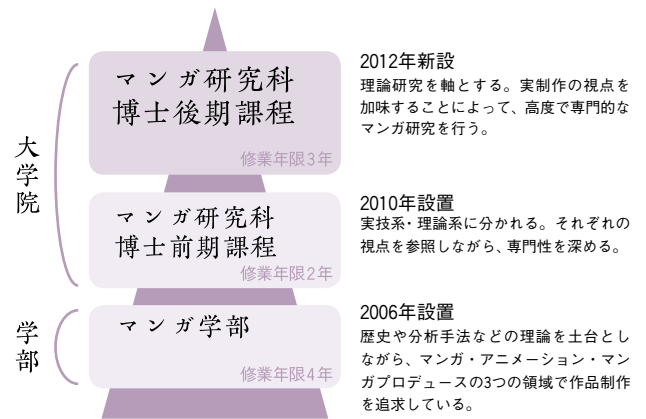
理論研究を軸とし、そこに実制作の視点を加味することによって、高度で専門的なマンガ研究を行うことが可能になる。指導教員は、国際的に活躍するマンガ研究者や、現役のマンガ作家、編集者などで構成。作家論の身近な研究対象となるだけでなく、実作者からの視点での研

究指導も行われる。

入学定員は4名。3年以上在学し、修了要件を満たせば、「博士(芸術)」の学位を取得する

ことができる。修了後の進路としては、研究者や大学教員、マンガ作家などを想定している。

本学のマンガ教育・研究領域



News 2 「キャリア・デザイン・センター」を設置

表現者のための新しいキャリア支援組織として

表 現を教育する本学の特徴を活かし、新しいキャリア支援組織として「キャリア・デザイン・センター」を4月に設置した。

現役の編集者、クリエイティブ・プロ

デューサーの2名を教員として招き、一般的な就職活動のノウハウだけでなく、プロのクリエイターやアーティストに必要な、自分自身や作品をプロデュースする能力を育成する。

また、学生のクリエイティブ力と社会をつなぐ産学連携事業をさらに強化。企業や団体から依頼のあった実際の仕事を体験



カリキュラムにもキャリアデザインに関する科目を増設

し、学生が表現力を社会へ発信する機会を増やしていく。

今年度の1年生より「eポートフォリオ」システムを導入する。これは、学生がインターネット上の個人ページに、作品や学習成果などを蓄積していくシステム。学生自身が学習成果を振り返ることができ、今後のキャリアを考えるきっかけにしてい

News 3 クリエイターの仕事受注サイト「SEIKA CREATORS BOARD」を開設

セイカ出身クリエイターと企業をつなぐ

本学の社会連携センターでは、5月17日に卒業生、在学生の仕事受注サイト「SEIKA CREATORS BOARD」(セイカクリエイターズボード)を開設した。

このサイトは、グラフィックデザインやイラスト、Webサイト制作、造形物制作、文章作成といったクリエイティブな領域で仕事の依頼先を探している企業や個人と、本学の卒業生クリエイターをつなぐ目的で開設。クリエイターは、作品画像やプロフィール、スキルとい

った情報を登録し、その情報を見た企業や個人は、登録されたクリエイターに直接仕事の相談や依頼を行うことができる。

1970年代の卒業生から本年3月卒業生まで、幅広い年代と分野から登録希望者が集まり、6月1日現在約80名がプロフィールや作品を公開。すでに仕事の依頼や相談の実例も生まれている。

このサイトには在学生の登録も可能。在学生は大学に依頼のあった社会連携プロジェクトなどへの参加の機会が与えられる。
(<http://www.seika-cb.jp/>)



探せる。頼める。SEIKA 出身クリエイター検索サイト。

4

News

キャンパスアート化プロジェクトが進行中

サイン計画、作品展示環境の整備など

“表現する大学”にふさわしい、アート表現に満ちたキャンパスへと環境整備を行うプロジェクトが進んでいる。

老朽化していた悠々館の食堂前のテーブルセットを刷新。大学院生を中心に、植物のようにデザインされた脚をもつテーブル、イスを制作した。

また、学外からの来客が多い本館では、レイアウト変更、サイン計画が実施された。レイアウト変更は、学生と事務局との交流促進を目的とし、2階に学生の利用頻度の高い教務課、学生課、障がい学生支援室、国際課、キャリア支援課を集結。1

階に設けたラウンジは、9時から22時まで開放され、授業やクラブ活動のミーティング、イベントが行われるなど、学生らが積極的に活用している。また、各階フロアの廊下には、作品展示のための照明、設備が整えられた。

本館内のサイン計画には、グラフィックデザインコースの卒業生が携わり、オリジナルのフォントで感覚的に何階にいるのかがすぐわかる表示が施されている。

今後、このプロジェクトでは、学内所蔵作品を使った学内展示、全キャンパスにおけるサイン計画も予定している。



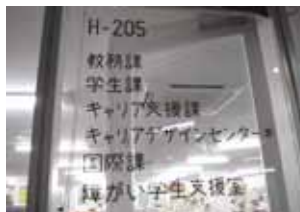
悠々館前のテーブルセット



本館サイン



本館1階のラウンジ



オリジナルフォントを作成

6

News

東日本大震災への対応について

学費半額・減免、支援金給付など

東日本大震災を受け、災害救助法適用地域において被災した在学生の世帯を対象に、2011年度学費の半額を減免または貸与する支援制度を適用した。また、入学内定者へは「新生活準備支援金」として希望者へ一律20万円を給付。4月には、被

災地ボランティアを志望する学生に対して、「震災関連ボランティア学内説明会」を開催した。そのほか、在学生・卒業生・教員らが、似顔絵チャリティ、現地調査など、さまざまな活動を行っている。

5

News

客員教授の受賞

山本容子氏、村上もとか氏が受賞

客員教授による受賞のニュースが相次いだ。デザイン学部ビジュアルデザイン学科客員教授の山本容子氏（銅版画家）が、京都美術文化賞を受賞。同賞は財団法人中信美術奨励基金が1988年に創設。美術の創作活

動を通じて、京都市民の精神文化向上に多大な功績があった人を顕彰して贈られている。また、マンガ学部マンガ学科客員教授の村上もとか氏（マンガ家）が、作品『JIN-仁-』にて第15回手塚治虫文化賞マンガ大賞を受賞した。

7

News

いしいしんじ氏、木皿泉氏、津田大介氏らが登壇

いまもっとも旬な著名人をゲストに招く「アセンブリーアワー講演会」、2011年度前期も話題のゲストが登壇した

5/12
いしいしんじさん
(小説家)

「いしいしんじの『ほんとうの小説』の話」と題した講演。冒頭では、あるワークショップが行われた。小説やマンガの見開き一部をいろいろな角度でコピーしたものを、いしいさんがランダムに読みあげ、参加者は紙のなかを探して目で追うもの。文章をひたすら「読み」ながら言葉をつづる、いしい流執筆方法を体験することができた。



5/26
木皿泉さん
(脚本家)

テレビドラマ『すいか』『セクシーボイスアンドロボ』『Q10』の脚本家である木皿泉さんは、男女ユニット。そのひとりで、本学の美術科染色コースの卒業生でもある妻鹿さんが来学した。脚本を書く苦しみについて触れ、「自分に沿うのか、世の中に沿うのか。その間い

には、自分に沿ったものを書く。書きたいと思わないものを書いてもおもしろくないでしょ」と制作を行う学生らにメッセージを送った。



6/2
津田大介さん
(メディアジャーナリスト)

津田さんは日本におけるTwitterジャーナリストの第一人者。講演では、ソーシャルメディアの普及によって情報の流れ方がどう変わったか、また震災をきっかけにソーシャルメディアが情報のインフラとしてどのように見直されたのか、その有効性と今後の可能性について語った。



そのほか前期は、ブックデザイナーの祖父江慎さん、建築家の石上純也さんが講演。

Report 2011年度新任教職員

2011年度から本学に新任した教職員の方々です

芸術学部



中川裕孝
テキスタイルコース
准教授

デザイン学部



志萱晃一
グラフィックデザインコース
准教授



中村光宏
イラストレーションコース
准教授



高尾茂行
プロダクトコミュニケーション
コース 教授



福田恵子
ライフクリエイションコース
講師



ソナ ゴヴォーキヤン
Sona Gevorgyan
建築コース 講師



エレナ マンフェルディニ
Elena Manfredini
建築コース 客員教授



手塚貴晴
手塚貴晴
建築コース 客員教授

マンガ学部



姜 竣
カートゥーンコース
准教授



浅井 康
マンガプロデュース
コース 講師

キャリア・デザイン・センター

川端幹人 准教授

ひでつう 准教授

事務局職員

木下祐子 教務部 教務課



Report 2

2010年度 退職教職員

以下の方々を2010年度で
退職されました

柏原えつとむ
(芸術学部)

高谷光雄
(芸術学部)

茶谷文子
(デザイン学部)

北條 崇
(デザイン学部)

服部滋樹
(デザイン学部)

ピーター クック
Peter Cook
(デザイン学部)

前田紀貞
(デザイン学部)

熊田正史
(マンガ学部)

杉本・パウエンス・ジェシカ
(マンガ学部)

六田 登
(マンガ学部)

由利耕一
(マンガ学部)

中田實紀雄
(マンガ学部)

辻 節子
(人文学部)

ジェームス パウダリー
James Powderly
(社会連携センター)
※2010年10月退職

セルジオ カラトロニ
Sergio Calatroni
(社会連携センター)
※2010年10月退職

学部別学生数

芸術学部	954人
デザイン学部	797人
マンガ学部	839人
人文学部	1297人
大学院	131人
合計	4,018人

(2011年5月現在)

Report 3 2011年度大学人事体制

2011年度大学役職者は以下のとおり

理事長
赤坂 博

学長
坪内成晃

専務理事・常務理事(総務担当)
上々手良夫

常務理事・副学長(教学担当)
教学推進センター長
葉山 勉

常務理事・副学長(学生担当)
キャリア・デザイン・センター長
武蔵篤彦

常務理事(企画担当)・企画室長
石田 涼

理事
杉本貞彦

理事
佐藤茂雄

理事
尾池和夫

理事
安村幸駿

監事
崎間昌一郎

監事
位ノ花俊明

監事
堂山道生

芸術学部長
松本ヒデオ

デザイン学部長
新井清一

マンガ学部長
竹宮恵子

人文学部長
堤 邦彦

大学院芸術研究科長
河村源三

大学院デザイン研究科長
井上斌策

大学院マンガ研究科長
ジャクeline ベルント
Jaqueline Berndt

大学院人文学研究科長
恩地典雄

全学研究センター長
馬郡貴司

共通教育センター長
高橋伸一

社会連携センター長
豊永政史

国際マンガ研究センター長
吉村和真

情報館長
宮 一穂

総務部長
鳥居本基代枝

入試広報部長
関口正春

入学部長
池垣禎彦

学長室長
福岡正藏

教務部長
佐藤守弘

教務部事務部長
武田恵司

学生部長
板倉 豊

学生部事務部長
高橋 勇

キャリア支援室長
力士 勝

京都国際マンガミュージアム館長
養老孟司

京都国際マンガミュージアム
事務局長
上田修三

4 Report 2010年度決算および、2011年度予算について

2010年度決算について

2010年度の帰属収入は前年度から約7千万円減少し、約70億7千万円でした。このうち学生納付金は82%を占めています。

この中から本館のレイアウト変更に伴う工事や、その他学内施設の諸改修工事等で約7千万円の施設関係支出を行いました。また、風光館及び自在館、情報館、清風館のコンピュータ教室の設備や、その他経常的な図書・備品充実等で約1億5千万円の設備関係支出を行いました。さらに、2010年度から明窓館建替えのための基本金組入も始めました。これにより、当年度の大学の基本財産取得に関わる基本金組入額は約2億5千万円となりました。

消費支出（人件費・経費等）は約68億4千万円で、2010年度の消費収支は約2千万円の支出超過となりました。この結果、累積消費支出超過額はおよそ33億9千万円となりました。

支払資金（現金・預金）は前年比約2千万円減の約45億6千万円となりました。

その結果、自己資金率は0.4%増加し、79.7%となりました。

2011年度予算について

2011年度はコンビニエンスストアの店舗開設に伴う工事や5号館のトイレ改修、講義室に設置しているプロジェクターの入れ替え等を行います。また、新たに設置したキャリア・デザイン・センターを核に就職支援やキャリア教育の拡充を図ります。それらの結果、単年度の消費収支は基本財産取得に関わる基本金組入等を含み1億8千万円程度の支出超過予算となっています。

また、支払資金（現金・預金）は2010年度に比べて約4億2千万円減の約41億4千万円となっています。

今後については、単年度収支を早期に黒字とし、教育活動の充実とともに財政の安定化に向けてより一層努力します。

2010（平成22）年度決算 2010年4月1日から2011年3月31日まで

資金収支計算書 (単位:円)

収入の部	
科目	金額
学生生徒等納付金収入	5,775,986,100
手数料収入	54,762,840
寄付金収入	30,296,000
補助金収入	670,518,112
国庫補助金収入	669,924,460
地方公共団体補助金収入	593,652
資産運用収入	86,385,560
資産売却収入	813,691,200
事業収入	248,983,463
雑収入	186,123,129
前受金収入	1,388,278,900
その他の収入	368,027,858
資金収入調整勘定	△1,796,619,615
前年度繰越支払資金	4,579,033,461
収入の部合計	12,405,467,008
支出の部	
科目	金額
人件費支出	3,423,879,270
教育研究経費支出	1,471,503,690
管理経費支出	676,823,853
借入金等返済支出	72,005,212
借入金等返済支出	248,300,000
施設関係支出	67,419,096
設備関係支出	151,828,642
資産運用支出	1,695,493,125
その他の支出	177,082,166
資金支出調整勘定	△142,073,944
次年度繰越支払資金	4,563,205,898
支出の部合計	12,405,467,008

消費収支計算書 (単位:円)

消費収入の部	
科目	金額
学生生徒等納付金	5,775,986,100
手数料	54,762,840
寄付金	39,545,227
補助金	670,518,112
国庫補助金	669,924,460
地方公共団体補助金	593,652
資産運用収入	86,385,560
資産売却差額	10,222,825
事業収入	248,983,463
雑収入	186,123,129
帰属収入合計	7,072,527,256
基本金組入額合計	△253,891,014
消費収入の部合計	6,818,636,242
消費支出の部	
科目	金額
人件費	3,781,618,694
教育研究経費	2,205,592,265
管理経費	734,638,773
借入金等利息	72,005,212
資産処分差額	32,828,954
徴収不能額	11,129,900
予備費	0
消費支出の部合計	6,837,813,798
当年度消費収入超過額	0
当年度消費支出超過額	19,177,556
前年度繰越消費支出超過額	3,369,243,621
翌年度繰越消費支出超過額	3,388,421,177

貸借対照表

2011（平成23）年3月31日現在

(単位:円)

資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	24,069,390,340	23,680,712,704	388,677,636
有形固定資産	18,617,878,009	19,217,763,931	△599,885,922
土地	4,228,370,256	4,228,370,256	0
建物	11,788,113,329	12,254,069,348	△465,956,019
構築物	423,825,337	488,886,475	△65,061,138
教育研究用機器備品	1,086,465,825	1,169,910,277	△83,444,452
その他の機器備品	30,048,684	38,937,340	△8,888,656
図書	1,054,437,457	1,036,628,751	17,808,706
車輛	400,621	961,484	△560,863
建設仮勘定	6,216,500	0	6,216,500
その他の固定資産	5,451,512,331	4,462,948,773	988,563,558
電話加入権	3,633,424	3,631,424	2,000
ソフトウェア	12,846,928	6,088,927	6,758,001
有価証券	2,224,341,531	3,024,333,335	△799,991,804
長期貸付金	316,739,398	329,671,037	△12,931,639
退職給付引当特定資産	1,235,492,000	936,785,000	298,707,000
減価償却引当特定資産	1,397,421,000	0	1,397,421,000
第2号基本金引当資産	98,599,000	0	98,599,000
第3号基本金引当資産	150,000,000	150,000,000	0
保証金	12,439,050	12,439,050	0
流動資産	4,817,051,404	5,059,534,243	△242,482,841
現金預金	4,563,205,898	4,579,033,461	△15,827,563
未収入金	203,847,465	219,632,284	△15,784,819
貯蔵品	3,715,048	6,334,952	△2,619,904
短期貸付金	30,872,020	25,796,570	5,075,450
有価証券	0	203,200,105	△203,200,105
立替金	3,087,637	3,578,042	△490,405
前払金	10,635,950	21,758,831	△11,122,881
仮払金	1,687,386	200,000	1,487,386
資産の部合計	28,886,441,744	28,740,246,949	146,194,795
負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	3,825,379,665	3,750,110,241	75,269,424
長期借入金	2,515,450,000	2,797,920,000	△282,470,000
退職給付引当金	1,309,929,665	952,190,241	357,739,424
流動負債	2,024,421,630	2,188,209,717	△163,788,087
短期借入金	282,470,000	248,300,000	34,170,000
未払金	127,538,145	111,270,603	16,267,542
前受金	1,388,278,900	1,592,814,150	△204,535,250
預り金	226,134,585	235,824,964	△9,690,379
負債の部合計	5,849,801,295	5,938,319,958	△88,518,663
基本金の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
第1号基本金	25,709,462,626	25,554,170,612	155,292,014
第2号基本金	98,599,000	0	98,599,000
第3号基本金	150,000,000	150,000,000	0
第4号基本金	467,000,000	467,000,000	0
基本金の部合計	26,425,061,626	26,171,170,612	253,891,014
消費収支差額の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
翌年度繰越消費支出超過額	3,388,421,177	3,369,243,621	19,177,556
消費収支差額の部合計	△3,388,421,177	△3,369,243,621	△19,177,556
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計			
科目	本年度末	前年度末	増減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	28,886,441,744	28,740,246,949	146,194,795

2011（平成23）年度予算 2011年4月1日から2012年3月31日まで

資金収支予算書 (単位:円)

収入の部	
科目	金額
学生生徒等納付金収入	5,485,744,000
手数料収入	52,250,000
寄付金収入	29,500,000
補助金収入	480,060,000
資産運用収入	82,848,000
資産売却収入	400,000,000
事業収入	275,189,000
雑収入	32,385,000
前受金収入	1,598,532,000
その他の収入	259,847,465
資金収入調整勘定	△1,587,793,900
前年度繰越支払資金	4,563,205,898
収入の部合計	11,671,767,463
支出の部	
科目	金額
人件費支出	3,249,564,000
教育研究経費支出	1,424,541,000
管理経費支出	748,818,000
借入金等利息支出	64,430,000
借入金等返済支出	282,470,000
施設関係支出	45,416,000
設備関係支出	72,001,000
資産運用支出	1,600,000,000
その他の支出	156,338,145
予備費	0
資金支出調整勘定	△110,635,950
次年度繰越支払資金	4,138,825,268
支出の部合計	11,671,767,463

消費収支予算書 (単位:円)

消費収入の部	
科目	金額
学生生徒等納付金	5,485,744,000
手数料	52,250,000
寄付金	32,700,000
補助金	480,060,000
資産運用収入	82,848,000
資産売却差額	3,400,000
事業収入	275,189,000
雑収入	32,385,000
帰属収入合計	6,444,576,000
基本金組入額合計	△285,000,000
消費収入の部合計	6,159,576,000
消費支出の部	
科目	金額
人件費	3,289,064,000
教育研究経費	2,161,941,000
管理経費	794,718,000
借入金等利息	64,430,000
資産処分差額	20,350,000
徴収不能額	12,000,000
予備費	0
消費支出の部合計	6,342,503,000
当年度消費支出超過額	182,927,000
前年度繰越消費支出超過額	3,388,421,177
翌年度繰越消費支出超過額	3,571,348,177



注目の授業 本学で行われている授業を紹介します

芸術学部
陶芸コース1年生

立体造形1

陶芸の基礎技法である「手びねり」を習得する授業。粘土が持つ造形素材としての特徴を素材の可能性を探求しながら制作を行う。

1年生でつくる初めての大型立体作品。テーマは、「過剰装飾で生命力を表現する」。粘土を再生することから制作を始め、手でひねりながら高さ90cmほどの円筒を成形する。釉薬の調合、焼成にも取り組んだ。学生らは、椿の花、タコ、クジラ、龍などをモチーフに、ダイナミックな造形で表現し、完成作品はオープンキャンパスに合わせて学内にて展覧会を行った。



デザイン学部
プロダクトデザイン学科3年生

スペースデザイン1

株式会社ワコールとの産学連携プロジェクトとして行われている共同研究授業。この授業の前半では、学生が数名のチームに分かれて事前リサーチを行い、未来の生活シーンを想定する。後半では、リサーチ内容を活かし、自分たちが考える未来のインナーウェアを実際にデザインしていく。

授業は、ワコールで実際の製作に携わっている商品開発、デザイン担当者と共に進められている。

学生作品は、学内でのプレゼンテーションを重ね、最終プレゼンテーションはワコール本社で行われる。



マンガ学部
ストーリーマンガコース1年生

絵画技法1

マンガを描くペンを使いこなすためのさまざまな基礎技法を学ぶ授業。また、マンガを描く上での原稿を扱う知識も学習していく。

プロのマンガ家から、ペンの使い方や集中線・カケアミ・ナワアミなどの描き方を順に教わる。オリジナルのスクリーントーン制作や、キャラクターの造形や感情などの表現方法についても習得する。

なお、この授業については、Webコンテンツ「SEIKA Lecture Note」で毎回レポートしている。



人文学部
2・3年生

コース演習I

文化とは何か、文化産業の研究とは何かを自分の言葉で説明でき、広告とメディアを通じて社会の構造を明らかにすることを目標とした授業。講義と演習を組み合わせ進められる。講義回では、理論的な枠組みの紹介を行い、演習回では講義内容に基づいた実践を行っていく。

ピアニストでもある小松正史先生の担当する演習では、自身が作曲した楽曲を素材として提供する。提供された楽曲をどうやって流通させるかディスカッションし、ライナーノーツの作成、CDジャケットのデザインなどを行う。最終的には指定された音源をCDパッケージにして商品化するための企画書を作成する。



客員教授、 ゲスト講師による授業

精華では幅広い専門分野から客員教授、
ゲスト講師を招いての授業を行っています

6/6

永島譲二先生

デザイン学部客員教授
BMWカーデザイナー

講演のテーマは自動車デザイン業界への「就職活動」について。ドイツやフランスなど、ヨーロッパを中心に活動してきた経験を元に、海外でデザイナーになるための心構えを話された。

ヨーロッパの自動車メーカーへは、韓国や中国の学生が積極的



アプローチをしていることに比べ、日本人学生のアクションはごくわずか。海外へ目を向けることで、チャンスが広がるので、「外国へ行く」という考え方をぜひ持ってみてほしいとアドバイスした。

6/6

大竹伸朗さん 美術家

津田朋延先生 デザイン学部 建築
コース 非常勤講師

建築学科のレクチャーシリーズ「可能性の空間」にて、「絵画と空間—直島銭湯I♥湯のことなど」と題した対談を行った。直島に建てた実際に入浴できる美術作品「I♥湯」について、写真を紹介しながら様々なエピソードがとびだした。

大竹さんは、直島に銭湯をつくって欲しいと依頼を受けた時は戸

惑いもあったが、自身も幼い頃は銭湯に親しんだことから「島民が元気になる銭湯を作りたかった」と、作品に込めた想いを語られた。

6/16

村上もとか先生

マンガ学部客員教授

特別講義にて、『JIN-仁-』の史実にもとづく壮大なストーリーがどのようにつくられたのかを中心に、自身の作品創作について語った。

また、質疑応答が行われ、時代劇を描いた理由、作品に登場するキャラクター、制作のスタンスなどについて、学生たちからさまざまな質問が寄せられた。



「マンガ家として40年描き続けているが、まだ可能性がある分野。マンガを学ぶみなさんに、マンガの世界を切り開いてほしい」と学生たちへメッセージを送っていた。

授業レポートブログ 「SEIKA Lecture Note」を公開中

京都精華大学の特色のある授業を紹介するWebコンテンツ「セイカレクチャーノート」を更新しています。

主に受験生を対象に、精華大の特徴的な授業に毎回密着し、詳細に内容をレポートしています。また、授業を実際に受けている学生たちのコメントを掲載し、授業で身に付いたことや感想を、リアルな言葉で届けています。(http://www.kyoto-seika.ac.jp/lecturenote/)

芸術学部テキスタイルコース 2011年卒業 ファッションデザイナー 明石祥吾さん



第85回装苑賞受賞作品

若きデザイナーの登竜門として、高田賢三、山本耀司など世界のトップデザイナーを数多く輩出してきた装苑賞。その第85回目の受賞者が明石祥吾さんだ。

テキスタイルコースの制作現場では一般的という、染色

の際に布を張るために使われる「伸子(しんし)」という竹ぐし。受賞作はその道具からヒントを得てつくられた。「服のパターンに竹ぐしを張り巡らせて、立体的で美しいと思える造形をつくりました。自分の個性は日本人ということ。カッコいい日本を表現したかった」

その思いは在学時、バックパッカーとして海外を巡った際の経験から生まれた。「外国の人に日本のイメージを聞くと“オタク文化”という答えが多かったんです。伝統工芸をデザインに盛り込んだのは、そんなイメージを払拭したかったから、というのあ

りますね」。また、あらゆる国の人々の生活を目の当たりにすることで、さまざまな価値観を掴めるようになったことも「いい経験だった」と話す。

在学中から美術館や洋服店などにも足しげく通い、あらゆる雑誌にくまなく目を通してきた。常にアンテナを張っていたことも、今回の受賞に繋がった理由のひとつ。「アマチュアの立場で服をつくることは、精華で学んだアート制作に近いと思います。自分の感情や経験を作品のコンセプトに落とし込んでいくプロセスは、欠かせませんから。でも、個人的でエモーショナルなものになっても、多くの

人の共感を得られないんです」。時代の流れと周囲の価値観を把握して共感を得る。だからファッションはアートではなくデザインなのだという。

受賞したことで有名ブランドへの就職や、フランスへの留学の道も開けた。「先のことははっきりと決めていませんが、将来は日本を代表するデザイナーになって、世界に通じるようなファッションデザイン・テキスタイルデザインコースを京都精華大学につくることが夢です」。デザイナー明石祥吾の名を目にする日も、そう遠くはないはずだ。

活躍する卒業生

様々な業界で活躍する卒業生を紹介します

人文学部 1999年卒業 フリーライター／編集者 福瀧智子さん

「プロ野球の記者になりたかったんです」。海外へも取材に行きたい、とにかく語学力をつけよう、と3年生のときにアメリカでの海外フィールドワークを希望した。そのための資金集めにとはじめたリゾートバイトで、「スノーボードがおもしろい!」ってなっ

て。野球記者への夢から一転、大学卒業後に上京し、スノーボード誌の編集部に入った。「山と渓谷社の『スノーボード』という雑誌でアシスタント募集の記事を見つけたんです」。面接時に出されたテーマは「雑誌を盛り上げるためにあなたがしたいこと」。大きな書店のスポーツ誌コーナ

ーで立ち読みをする人に声をかけてリサーチを重ね、文章を提出した。「とにかく目立たないといけない、と思っていました。アメリカに行った際は、主張をしなければ、ものごとは動かないということを学んだので」。その行動力が実を結んだ。この編集部でまた新たな出会いが訪れる。

「ある日、隣の『アウトドア』編集部から、フジロックのキャンプサイトのケアをしてほしいという依頼があった、という会話が聞こえてきたんです。とにかくフジロックに行きたかったのです。なんでもするから仲間に入れてほしいってお願いして。初めてのフジロックでは、野外で音楽を聴

く素晴らしさはもちろん、それ以上にテントで寝ることの楽しさに衝撃を受けました」。こうして、いまや国内フェスには不可欠、主催フェスも開催する「キャンプよろず相談所」(通称“よろず”)のメンバーとなる。以来、アウトドアの分野にも精通し、女子のアウトドア雑誌『ランドネ』の編集長を務めるほどに。

「おもしろいことを貪欲に求める人たちがたくさんいた精華での4年間を過ごせたことは、私にとって財産。これからも自分の周りの人たちを引き合わせて、雑誌やイベント、商品やワークショップなどおもしろいことをどんどん企画していきたいですね」

今後の予定は?の質問には「“よろず”として宮古島ロックフェスに行ったあと、石垣島に渡って20日間くらい取材をする予定です。その次はもうフジロックですね」との答え。福瀧さんの長い夏は、もうはじまっている。



撮影: 柏倉陽介

教員が綴る自身の近況

拝啓、卒業生のみなさんへ

From
Teacher



新井清一先生

毎年、謝恩会の際、ゼミの卒業生に配布していた学籍番号入りTシャツに記載されている星マークの数が、本年の4月で16個目となりました。早いものです、京都精華大学で教鞭を執り始めて16年が経過したことになります。振り返ってみれば、自身の人生で同じ場所、同じ境遇のところを継続して10年以上いた事がないのですから、これは記録更新に違いありませんし、とことん精華大建築学科、京都にいたことが好きであるという証拠になるのかも知れませんが、反面、隙あらば海外に出

向いているのが現状でしょうか。講演会、視察、都市計画、建築プロジェクトの遂行への必要性から頻繁に飛んでいます。不思議な事に、いろいろな都市に行っても——「あ、ここには前世でいた事があるのではないか、見慣れた風景、空気感だ」——などと感じる事が多く、民族的には大陸から来た移民でたまたま日本にいるのだ、などと勝手な推測が頭の中を過る今日この頃です。



新井清一
建築家。ロシヤ、中国など海外でのプロジェクトを多数手がける。在籍17年。

レベッカ・ジェニスン先生

人文学部設立以来、20年以上経っていますが、このごろ何人かの卒業生から子どもの写真入りの年賀状をもらうようになりました。大学では相変わらず、ゼミ生がさまざまな独自の卒論/卒制のテーマを取り上げています。近年、マンガや小説を制作している学生が増えている一方、「文学戻り」という傾向もみられると思います。学生たちの豊かな表現力、想像力をみて、私も勉強させてもらっている感じです。

さて、私の近況報告ですが、昨年の後期にひさしぶりの「学

外研究」で、スタンフォード大学に滞在しながら、「近代日本文学」の授業や「パフォーマンス・スタディーズ研究会」に参加することができました。一方、『アート・オブ・インターヴェンション』という共同研究プロジェクトにも参加し、現代のパフォーマンス・アート関連の展示やイベントも企画/準備中です。

(<http://www.art-of-intervention.com/exhibitions-events.php>)



レベッカ・ジェニスン
人文学部教授。研究分野は芸術/ジェンダー論。在籍32年。

Topics

「ヤン&エヴァ・シュヴァンクマイエル展」の運営に学生が参加

チェコアニメーションの巨匠、ヤン・シュヴァンクマイエルの展覧会「エヴァ&ヤン・シュヴァンクマイエル展」に、学生たちが関わっています。展覧会の仕組みを実践的に学ぶことができるワークショップを通じて制作・運営に参加。メディアへの広報、ポスタ

ーやフライヤーなどでのイベント告知、展示の方法を自分たちで企画し行います。なお、この展覧会は、7月22日(金)～8月14日(日)および、10月7日(金)～10月23日(日)に京都文化博物館の特別企画として開催されます。ぜひ足を運んでみてください。

訃報 中原佑介さん 柴谷篤弘さん

本学名誉教授で美術評論家の中原佑介先生が3月3日(木)にご逝去されました。先生には1979年4月から2002年3月まで美術学部、芸術学部の専任教授としてご尽力いただきました。1980年11月から1983年3月の間には学長を務められました。

また、本学名誉教授で生物学者・思想家の柴谷篤弘(本名:横田篤弘)先生が3月25日(金)にご逝去されました。先生には1989年4月から1995年3月まで人文学部の専任教授としてご尽力いただきました。1992年4月から1995年3月の間には学長を務められました。

謹んでお二人のご冥福をお祈り申し上げます。

ご支援くださるみなさまへ ～ご寄付のお願い～

様々な支援に関して、ご寄付のご協力をお願いしております。

「学生奨学金制度への支援」、「学生生活への支援」、「文化振興活動への支援」、「国際交流活動の支援」、「教育・研究設備整備事業への支援」より寄付用途を選んでいただき、みなさまのご意向にかなう運用をしています。お申し込みは、銀行窓口、もしくは、インターネット上でのクレジットカード決済にてご寄付いただけます。

この寄付金は、文部科学省から「特定公益増進法人であることの証明書」の交付を受けており、税金控除の優遇措置を受けることができます。

詳細につきましては寄付募集Webサイト、リーフレットをご覧ください。

●寄付募集Webサイト

<http://www.kyoto-seika.ac.jp/donate>

●お問い合わせ

京都精華大学企画室寄付募集担当

TEL: 075-702-5201 / FAX: 075-702-5391

kikaku@kyoto-seika.ac.jp

Kino Press No.52

Kyoto Seika University

木野通信 第52号
2011年7月1日発行

京都精華大学入試広報部広報課
〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137
TEL 075-702-5197

<http://www.kyoto-seika.ac.jp>

「木野通信」送付先住所の変更は企画室・木野会事務局 075-702-5391 (FAX) または kinokai@kyoto-seika.ac.jp までご連絡ください。